

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜総合学園高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年10月11日(水) 13:30～15:30
- 3 開催場所 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 会議室
開催にあたり、生徒の活動を紹介する映像の視聴、ならびに委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	神谷 政人	(社) 中部地域づくり協会
副 会 長	熊田ますみ	平成医療短期大学教授
委 員	早瀬 雅彦	須賀地区兼須賀東地区自治会長
	長屋 恭一	同窓会会長 *欠席
	菊池 啓子	中部学院大学短期大学部教授
	徳村 恵子	P T A役員 (副会長)
	岩田 好弘	P T A役員 (副会長)
学校側	片岡 潤子	校長
	宇佐美理恵子	事務部長
	伏見 圭太	教頭
	籠橋美和子	教頭
	福井 恵梨	総合企画部長
	川口 智慎	教務主任
	山田 祐治	生徒指導主事 (欠席) 代理 大江 哲郎
	柳瀬 智裕	進路指導主事

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 学校評価の結果について

意見1: 入学できてよかった、と思っている生徒が非常に多く、昨年より増えているのはすばらしい。生徒への関わりがきめ細やかにされている。

意見2: 生徒指導面では、部活動に力を入れ、人間教育を行っているとの話があった。本校の生徒は、基本的なモラルやマナーはしっかり身につけている。挨拶をきちんとしてくれ、授業中もしっかりした態度で授業を受けているのを拝見した。

意見3: 「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」という質問の回答で、80名ほどの生徒が不安に思っている。保護者のアンケートでも、「教員は授業をとおして、学力が向上するように指導している」「授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている」の項目について、「あまりあてはまらない」と回答した保護者の割合が他の項目に比べて多い。学習支援について対応を強化すると、保護者の方の信頼が得られるのではないかと。

⇒ICTを授業に取り入れてしばらく経つが、授業で利用している教員がいる一方、苦手意識が先立ち、従来の講義式の授業を行う教員もいる。現在お互いに授業見学をしているが、さらに授業力を向上させるために研修を実施する必要がある。研修主事を中心に、教員の授業改善に資する研修を実施していきたい。

意見4: 心の面について、教育相談に集中することのないよう、カウンセラーの回数を増やすなど、より強力な対応を行うとよい。

(2) 学校と地域の連携について

意見1：昨年はコロナ禍でできなかった地域連携が、今年度色々なところで実施され、系列の生徒が体験し、思いを発表する場が設けられている。学校の通常授業や座学では身につかないことを体験し学んだことにより、自分の知識につながるとともに多くの効果が生じている。

意見2：地場産業との連携もなされている。岐阜市は地場産業を広げることを課題としているが、そうした課題にも貢献できている。

意見3：「ゆうやけコンサート」が実施できてよかった。地域におりながら、初めてみせてもらった。大変すばらしく、圧倒され、感動して帰った。校内でやる形とは少し違ったが、ふれあい会館の外での演奏は後ろの壁が音響効果を高めていた。ホールでもいい文化部の発表が聞けた。

今までのゆうやけコンサートは校内で行われ、須賀の住民が大勢集まっていた。今年はちよっと離れたふれあい会館で実施したが、どれだけ地域の方が見に行ったか、気になっている。地域、須賀地区の参加について分かれば教えてほしい。

⇒サラムンカホールの入り口で受付を行ったところ、地域の方は年配の方中心に50名ほどの参加があった。ただ須賀地区の方は少なかったようだ。

今回はPRの時間が少なかった。しっかり反省をし、来年に向けて計画したい。

意見4：「株式会社CR」について尋ねたい。

⇒観光ビジネス系列において、起業や集客を学ぶことを目的として立ち上げた会社である。イベントも学びの一つのツールで、集客するためにどうすればよいか考え、工夫して取り組んでいる。来年度以降は、より生徒主体でこの活動を進化させていきたい。

意見5：この会社や岐阜総合学園の存在意義を示すことを目的として、どういったことをしていくのか考え、生徒自身が自慢できる学校として魅力を発信していくとよい。

意見6：学校と地域の連携を本当にたくさん行っているのがよく分かった。学校だけの学びではなく、企業の助けを受けつつ地域での学びがあり、さらに本校生徒が外部に向けて様々な発信をしているのは素晴らしい。

現代は社会変化のスピードが速い、一年先が分からない時代である。今まで通りの型にはまった教育では、世界の中で戦えない。色んな人の話を聞き、大人とのかかわりを積むことは人生のキャリア教育となる。

(3) その他

意見1：授業参観はとても楽しかった。自分の頃と現在の教え方のギャップに驚くとともに感心した。時代の移り変わりを感じた。

意見2：高校生の部活離れや部員確保が課題とのことであるが、部活動の数を減らすということもありえるのか。

⇒部活動の数は精選していく方向である。本校には生徒諸活動支援部という組織がある。

例えばインターハイで優勝したフェンシングも「フェンシング部」ではなく、生徒諸活動支援部というくくりの中で、岐阜総合の名で大会に出ている。柔道も部はないが引率をつけて大会に参加している。今後、社会体育と連動し、地域のクラブなど部活外で継続して頑張っている生徒を全力で支援する体制にシフトしているところである。

意見3：高校見学会への中学生の参加が多くなったのは、運動系部活動だけでなく、太鼓、吹奏楽、合唱など文化系部活動の充実の影響と思う。身体を動かすのが得意な生徒ばかりではないので、本校では多様化が進んでいる子供達への対応が上手くいっている。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、授業の見学などを通して、委員に本校の様子を伝えることができた。また全委員より率直な質問や意見が出され、学校評価や地域連携について理解が得られた。今後も地域の方や保護者に本校の良さを発信するとともに、より充実した教育活動を実践していきたい。